宗教裁判官　異教の悪病を傳染された。

コウション　サタンの一味である、と。

宗教裁判官　われわれは決定する。汝は破門されねばならぬ、と。

コウション　さうして今われわれは、汝を投げ出し、汝を隔離し、汝を俗界の力に打ち任せる、と。

宗教裁判官　その俗界の力を戒めて、死と手足の切斷とに關しては汝に對する判決を緩和せしめる。〔席に復する〕。

コウション　またもし汝に於いて些かにても眞の悔悟の徵候現はれるならば、われわれの同胞（ブラザ）マアティンをして、汝に懺悔の聖奠を施すことを許す。

牧師　火の中へこの魔法づかひを。〔彼は彼女の方へ突き進み、兵士たちを助けて彼女を押し出させる〕。

ヂョウンは中庭を抜けて連れ去られる。陪席判事たちは不秩序に立ち上り、兵士たちについて行く。ただラドヴニュのみは、その顏を兩手の中に隱してゐる。

コウション〔坐りかけて立ち上り〕　否（ノウ）、否（ノウ）、これは違反である。俗界の代表が此處へ來て、われわれの手から娘を受取るべきである。



宗教裁判官〔同樣にまた立ち上りて〕　あの男は度し難い馬鹿者だ。

コウション　同胞（ブラザ）マアティン、すべて秩序よく行くかどうか見てくれ給へ。

ラドヴニュ　私は娘の傍に立つことになつてをります。あなたは御自分の權力を執行してください。〔彼は急いで出て行く〕。

コウション　あのイギリスの奴等と來てはとんでもない奴等だ。いきなり娘を火の中へ抛り込むだらう。見なさい！

彼は中庭の方を指さす。其處には火のほてりとゆらめきが五月の日光を赤く染めてゐるのが見られる。ただ司教（ビショフ）と宗教裁判官だけが法廷に取り殘されてゐる。

コウション〔行きかけて〕　われわれはあれを止めねばなりません。

宗教裁判官〔靜かに〕　さうです。ですが、あまりせいてはなりません、閣下。

コウション〔立ち止まつて〕　でも一刻も猶豫は出來ません。

宗教裁判官　われわれは秩序正しく審理したのです。たとひイギリス人が勝手にまちがつたことをしようとも、それを矯正することはわれわれの仕事ではありません。手續上の瑕瑾が後で役に立たないとも限らないです。全く。それに、早くけりがつけばつくだけ、あの氣の毒な娘に

はいいのです。

コウション〔氣を落して〕　それはさうです。しかし、われわれはこの恐ろしい事を最後まで見なければならないかと思ひます。

宗教裁判官　誰しも慣れて來ます。習慣が萬事です。わたしは火には慣れてゐます。すぐすみます。しかし若い罪のない者が、教會と法律といふ此の二つの大きな力に挾まれて打ち碎かれるのを見るのは、恐ろしいことです。

コウション　あなたはあの娘を罪はないと仰しやる！

宗教裁判官　おう、全く罪はないです。あんな娘が、教會や法律に就いて何を知つてゐませう？あの女はわれわれの云つた言葉が一つもわからなかつたのです。苦しみを受けるのは無智な者です。さあ行きませう。でないと、最期に後れますよ。

コウション〔一緒に歩き出して〕　わたしは後れても殘念には思ひません。あなたのやうに慣れてゐませんから。

二人が出て行かうとすると、ウォリクがはひつて來て出逢ふ。

ウォリク　おう、失禮をいたしました。もうおすみになつたとばかり思ひまして。〔出て行くふりをする〕。

コウション　どうかそのまま、閣下。もうすみました。

宗教裁判官　死刑執行はわれわれの所管ではありません、閣下。しかし、最期を見屆けることは望ましく思ひます。ですから失禮ですが——〔禮をして、中庭を抜けて出て行く〕。

コウション　あなたの部下が果して法律を守つてゐるか否かに疑問があるのです、閣下。

ウォリク　わたしは、あなたの權威がこの町に及んでゐるか否かに疑問があると伺つてゐますがね、閣下。此處はあなたの教區ではありません。しかし、もしあなたがそれに對して責任を負はれるなら、わたしもその他一切の事に對して責任を負ひませう。

コウション　われわれが共に責任を負ふべきは神に對してです。さやうなら、閣下。

ウォリク　閣下、さやうなら。

二人はちよつとの間隱しきれない敵意をもつて睨み合ふ。それからコウションは宗教裁判官の後を追うて外へ出る。ウォリクはあたりを見廻はす。自分だけなので從者を呼ぶ。



ウォリク　おういい、誰かゐないか？〔沈默〕。おういい、おういい！〔沈默〕。おういい！　ブライブ

ン、小僧、何處へうせた？〔沈默〕。小僧！〔沈默〕。みんな火あぶりを見に行つたな、小僧までが。

沈默は、誰か狂氣したやうに泣き喚きすすり上げてゐる人の聲で破られる。

ウォリク　何だ、一體これは――？

専屬牧師（チャプリン）が中庭から、氣のちがつた人のやうによろめき込む。顏には涙が流れてゐる。彼は罪人の床几（スツウル）に躓き、胸の裂けるやうにすすり上げながらその上に打つ伏す。

ウォリク〔彼の傍へ近寄り、その肩を輕く叩いて〕　どうした、マスタ・ヂョン？　一體どうしたといふんだ？

牧師〔彼の手にしがみついて〕　閣下、閣下、後生ですから、私のあはれな罪深い靈の爲にお祈してください。

ウォリク〔なだめて〕　よし、よし、祈つて上げるとも。靜かに、ゆつくりと――

牧師〔あはれに泣きじやくりながら〕　私は惡人ぢやございません、閣下。

ウォリク　さうとも、さうとも、決して惡人ぢやないよ。



牧師　私はなんにも惡意があつたわけぢやありません。私はこんなことだとは思はなかつたのです。

ウォリク〔硬化して〕　おう！　ぢや、見たんだな？

牧師　私は自分のしてゐたことがわからなかつたのです。私は怒りつぽい馬鹿者です。それで私はその爲に未來永劫呪はれます。

ウォリク　ばかな！　そりや苦しいには苦しいだらう。しかし、君のせゐぢやないよ。

牧師〔悲しんで〕　私がみんなにさせたのです。私はわかつてゐたら、みんなの手からあの娘を取り戻したでせう。お前にはわからないのだ。お前は見たことがなかつたのだ。わからないでしやべるのは、造作もないことだ。お前は言葉で自分を逆上させるのだ。お前自身を呪つてゐるのだ。お前自身の短氣の燃え立つ地獄の火に油を注いでそれをえらいことと感じてゐるから。しかしそれがお前の胸に思ひ當つて來ると、お前のしたことが見えて來ると、それがお前の目を盲目にし、お前の鼻を息づまらせ、お前の心臟を引裂くと、その時こそ――その時こそ――〔跪いて〕おう神よ、この光景を私に見せないで下さい！　おうクリスト、私を燒き盡すこの火から私を助け出して下さい！　娘は火の中であなたに呼びかけました、イエス！　イエス！　イエス！

と。あの娘はあなたのお胸の中にゐます。それに私は永久に地獄にゐるのです。

ウォリク〔手早く彼を引き立てて〕 さあ、さあ、おい。しつかりしなくちやいかん。町中の笑物になるよ。〔あまりやさしくもなくテイブルの向の椅子の中へ投げ込んで〕 あんな物を見るだけの氣力がないなら、なぜわしのやうにして、遠ざかつてゐなかつたんだ？

牧師〔當惑して素直に〕 あの娘は十字架を望みました。一人の兵士が二本の棒切を結び合せてやりました。ありがたいことに、それはイギリス人でした。私にだつて出來たでせう。でも私はしなかつた。私は臆病者です。氣ちがひ犬です。馬鹿です。しかし、その男だつてイギリス人でした。

ウォリク 馬鹿な奴！ 坊主たちにつかまつたら火あぶりにされただらう。

牧師〔痙攣で身震ひして〕 中にはあの娘を笑つた者がありました。そんな奴はクリストだつて笑つたでせう。それはフランス人でした、閣下。確かにフランス人でした。

ウォリク しつ！ 誰か來た。ちやんとしなさい。

ラドヴニュが中庭を抜けてウォリクの右手へ戻つて來る。手には教會堂から持つて來た司教（ビショフ）の十字架を持つてゐる。彼は非常に嚴肅に落ちついてゐる。



ウォリク すつかりすんださうだが、ブラザ・マアティン。

ラドヴニュ〔謎のやうに〕 私どもにはわかりません、閣下。今頃やつと始まつた所かも知れません。

ウォリク そりやどういふことなのです、一體？

ラドヴニュ 私はあの娘に最後まで見せようと思つて、教會堂からこの十字架を持つて來たのです。あの娘は二本の棒切を胸に抱いてゐたきりでしたから。火が私たちのまはりに這つて來て、もし私があの娘の前にいつまでもこの十字架を捧げたままでゐたなら、私まで燒かれさうになつたのを見ると、あの娘は私に早く下りてあぶなくないやうにしなさいと注意してくれました。閣下、こんな際に他人の危險を考へることの出來るやうな娘は、惡魔に見入られたものではありません。私の持つてゐる十字架が見えなくなると、娘は天を見上げました。私は天が空虛であつたとは思ひません。救世主がいともやさしき榮光に包まれてその時彼女に現はれたことを私は確く信じます。娘は救世主に呼びかけて死にました。それは彼女にとつて最後ではなく、始まりです。

ウォリク これは人民共に惡い影響を及ぼしはしないかと思はれる。

ラドヴニュ 既に、閣下、いくらか影響を及ぼしました。笑聲が聞こえました。失禮ですがそれ

はイギリス人の笑聲であつて欲しかつたと希望し、またさうだつたと信じます。

牧師〔狂つたやうに立ち上つて〕　否、さうぢやなかつた。其處には自分の國の名を穢したイギリス人はたつた一人ゐただけだつた。それは氣ちがひ犬のド・ストガンバだつた。〔彼は叫びながら荒荒しく驅け出して〕　あいつを拷問にかけさせろ。あいつを火あぶりにさせろ。わたしはあの娘の灰の中でお祈をしよう。わたしはユダ同然だ。首をくくつてしまはう。

ウォリク　早く、ブラザ・マアティン。追つかけ給へ。とんだことをしでかすかも知れない。追つかけて、早く。

ラドヴニュは、ウォリクがせき立てるので、急いで出て行く。死刑執行人が判事席の後のドアからはひつて來る。ウォリクは引返して來て、彼と向ひ合ふ。

ウォリク　おや、こいつ、何者だい？

死刑執行人〔威嚴を見せて〕　こいつとは恐れ入りました、閣下。私はルアンの主席死刑執行人です。非常に熟練を要する藝です。閣下のお指圖通りに致しました事を御報告にまいつたのです。

ウォリク　これは失禮しました、主席死刑執行人君。金になるやうな形見はなくとも、君の損にならないやうにしてあげよう。所で、何一つ殘らない、骨一本、爪一枚、髮一筋も殘らないといふ約束だつたね？



死刑執行人　あの娘の心臟がどうしても燒けないんです、閣下。ですが燒け殘つたものはすつかり川の底へ投げ込みました。これが、あの娘についてお聞きになる最後の話です。

ウォリク〔ラドヴニュの云つたことを思ひ出して、苦笑しながら〕　最後だと？　ふむ！　どうだか！

# エピログ

一四五六年六月の或る眠れない氣まぐれな風の夜、暑熱の幾日かの後で夏の稻妻に充ちてゐる。フランスの王(キング)チャアルズ七世、昔のヂョウンの太子(ドウファン)、今のチャアルズ戰勝王、年齡五十一、が、その離宮の一つの寢臺に寢てゐる。寢臺は、二段の高座の上に据ゑつけられて、中央の高い尖り窓を塞ぐことを避けるように向けられてある。その天蓋には王家の定紋が縫取ですわつてゐる。天蓋と大きな羽根枕だけを除けば、幅の廣い長椅子(セッチ)に寢具と掛布(ヴァランス)を掛けたものと何等の差別はない。だから寢てゐる人は足の方から一目に見える。

チャアルズは眠つてはゐない。彼は寢て讀んでゐる。といふよりは、見てゐる、フウケのポッカチオの中の繪を。その兩膝を重ねて見臺を作りながら。寢臺の横の左手には處女の繪の附いた小さいティプルがあつて、色蠟燭に照されてゐる。壁には天井から床まで繪の垂幕がさがり、絶えず動いてゐる。一目見ると垂幕の全體に



行き亙つてゐる黄赤味が、襞の風を吸ひ込む度に多少火焔の如くなる。

戸口はチャアルズの左にある。だが、彼から一番遠い隅寄の前面になつてゐる。一つの大きな夜警のがらがら鈴の、綺麗に意匠されて派手に塗られたのが、寢臺の、手の下の所にある。

チャアルズは紙を一枚めくる。遠くの時計が靜かに半時を打つ。チャアルズは書物をぽんと閉ぢる。それを傍へ投げ出す。がらがら鈴を取り上げる。力を入れてそれを振り廻し、つんぼになりさうな音を立てる。ラドヴニュがはひつて來る。二十五歳年上の、態度の妙に硬(エハ)ばつた、今だにルアンの十字架を抱へてゐる。チャアルズは明かに彼を期待してゐるのではない。その證據には、寢臺から飛び出して戸口から一層遠い方へ下り立つ。

チャアルズ　お前さんは誰です？　宿直(とのゐ)の者は何處にゐるんだらう？　お前さんは何しに來た？

ラドヴニュ〔おごそかに〕　わたくしは大變におめでたい吉報を持つてまゐりました。お喜びください、王樣。けがれはあなた樣の血から、よごれはあなた樣の王冠から取り去られました。正義は久しく妨げられてをりましたが、遂に勝利を得ました。

チャアルズ　お前さんは何のことを話してるんだ？　お前さんは誰です？

ラドヴニュ　わたくしは同胞（ブラザ）マアティンです。

チャアルズ　して、失禮だが、同胞（ブラザ）マアティンといふのは誰でしたかね？

ラドヴニュ　わたくしはむすめが火あぶりになつた時にこの十字架を持つてゐました。二十五年の月日がそれからたちました。殆んど一萬日の月日が、さうしてその間毎日わたくしは神に祈つて、どうか神の娘が天國に於いて正しく認められたと同樣に地上に於いても正しく認められるやうにと願ひました。

チャアルズ（氣を取り直して、寢臺の足の方へ腰をかけ）　おう、やつと思ひ出した。わたしはお前さんのことを聞いたことがある。お前さんはあのむすめのことで氣が變になつてゐたさうだね。お前さんは審問に立ち合ひましたか？

ラドヴニュ　わたくしはわたくしの證言を與へて來ました。

チャアルズ　もうすみましたか？

ラドヴニュ　もうすみました。

チャアルズ　滿足に？



ラドヴニュ　神のなされ方といふものは不思議なものです。

チャアルズ　どうして？

ラドヴニュ　聖者を異教徒として女魔術師として火あぶり臺に送つた裁判では、眞實が語られました。法律が持ち上げられました。慈悲があらゆる慣例以上に示されました。最後の恐ろしいうそだらけの宣告と殘酷な火あぶりの不正を除いては、いかなる不正も行はれませんでした。わたくしが只今戻つて來た今度の審問では、破廉恥の僞誓がありました。お上品な買收がありました。自分たちの見解に隨つて義務を行つた死人たちの中傷がありました。論爭の卑怯な回避がありました。百姓の子供をさへごまかせないやうなくだらない話で出來た陳述がありました。しかし正義に對するこの侮辱から、教會のこの名譽毀損から、うそとばかばかしさの此の騷から、眞實が山上白日の中に置かれました。無邪氣の白の上衣は燃ゆる薪束の穢れから清められました。聖なる生命は淨化されました。火燄の中に生きてゐた眞實の情感は神に祀られました。大うそは永久に沈默し、大不正は衆人環視の中で訂正されました。

チャアルズ　わたしの友だちよ。わたしは世間の者に、わたしは女魔術師や異教徒のおかげで王冠をかぶせて貰つたのだと云はれなくなつたら、策略がどんな風に行はれたかといふやうなこ

とについては兎や角云はないだらう。ヂョウンだつて結局は正しくなるのだつたら、そのことを兎や角云ひはしないだらう。あれはそんな種類の女ではなかつた。わたしはあれを知つてゐた。あれの復籍は完全に行きましたか？　わたしはそれについて不條理なことがあつてはならぬといふことを、かなりはつきりさせて置いたが。

ラドヴニュ　彼女の審判者たちは、腐敗、欺瞞、詐欺、悪意に充ちてゐたことが、おごそかに宣言されました。四つの虚偽に充ちてゐたことが。

チャアルズ　虚偽のことなんぞかまはないで置きなさい。あの女の審判者たちは死んでゐる。

ラドヴニュ　彼女に對する宣告は破られ、廢棄され、根絶され、非存在物として抛棄され、價値も效果もないものになつてしまひました。

チャアルズ　よし。誰も今となつてはわたしの聖列問題を何とか云ふ者はあるまいが、どうだらう？

ラドヴニュ　シャアルマアニュだつて、王ダビテだつて、これ以上に神聖な戴冠式を擧げはいたしませんでした。

チャアルズ〔立ち上つて〕　よろしい。それがわたしにとつてどんなに大事だか考へて見なさい。



ラドヴニュ　わたくしはそれが彼女にとつてどんなに大事だかを考へてをります！

チャアルズ　それはいかん。わたしたちはみんな、どんなことがあの女にとつてどんなに大事だかといふことはわからなかつた。あの女はほかの誰ともちがつてゐた。あの女は何處にゐても自分のことは自分で考へねばならなかつた。といふのは、わたしにはあの女のことを考へてはゐられない。またお前さんだつて考へてはゐられない。お前さんはどう思つてるか知らないが、だいち、お前さんはそれほど大きくはないよ。わたしはあの女のことについてお前さんにこれだけのことを云つてあげよう。もしお前さんがあの女を生き返らせることが出來たとしても、あの女は六箇月たたないうちにまた燒き殺されてしまふだらう。あの女が今日ではどんなに崇拜されてゐるか知らないが。さうしてお前さんはまた十字架を抱へることだらう、同じやうに。だから〔十字を切つて〕あの女を安らかにさせて置きなさい。さうしてお前さんもわたしもお互ひの仕事に氣を付けて、あの女のことには立ち入らないやうにしようぢやないか。

ラドヴニュ　まさかにわたくしが彼女のことにたづさはつてならぬといふわけはないと思ひますが！〔あちらを向いて、はひつて來た時のやうに大跨に歩き出す、かういひながら〕これからさきわたくしの通る道は王宮の中にはありますまい。またわたくしの話相

手は王者たちではありますまい。

チャアルズ〔戸口の方へ彼の後を追ひながら、呼びかけて〕それは餘程御利益になるだらうね、坊さん！

〔部屋の中ほどまで戻つて來て、立ち止まり、ごまかし半分に獨り言をいふ〕愉快な奴だつた。どうしてはひつて來たんだらう？　家來どもは何處にゐるんだ？〔性急に寢臺の所へ行き、がらがら鈴を振る。開いた戸口から突進した風が壁をあわただしく搖がす。蠟燭が皆消える。彼は暗闇の中で呼び立てる〕。おうい！　誰か來て窓を締めろ。何もかも吹き飛ばされてしまふ。〔一閃の稲妻が尖り窓を浮き出させる。一つの姿がその前に影法師になつて見える〕。そこにゐるのは誰だ？　それは誰だ？　助けてくれ！　人殺し！〔雷鳴。彼は寢臺に飛び込み、夜具の下に隱れる〕。

ヂョウンの聲　安心していらつしやい。なんだつてそんなにお騷ぎになるの？　いくら騷いだつて誰にも聞こえはしません。あんたは眠つていらつしやるのよ。〔彼女の姿が寢臺の傍の仄白い青い光の中にぼんやりと見える〕。

チャアルズ〔のぞいて〕ヂョウン！　お前は幽靈なのかい、ヂョウン？

ヂョウン　幽靈にもなれないわ。あはれな火あぶりの娘が幽靈になんぞなれるもんですか？　あたしはあんたの見ていらつしやる夢なのよ。〔光が增す。二人ともはきりと見えて來る。彼は起き上る〕。あ



んたも年とつたわね。

チャアルズ　年とつたよ。わたしはほんとうに眠つてるのかい？

ヂョウン　あんたのくだらない本を見ながら眠つていらつしやるわよ。

チャアルズ　をかしいね。

ヂョウン　あたしが死人だといふほどをかしかないでせう？

チャアルズ　お前はほんとうに死人なのかい？

ヂョウン　これまで死んだどの死人とも同じやうに死人なのよ。あたしには身體がないのよ。

チャアルズ　さうだらう！　あれでひどく怪我をしただらう？

ヂョウン　何でひどく怪我を？

チャアルズ　火あぶりで。

ヂョウン　おう、あれ！　よくは思ひ出せないわ。はなのうちはひどく怪我をしたやうだつたけども、やがてすつかりまぎれてしまつたわ。さうして、あたし身體から自由になるまでは正氣につかなかつたの。でも、火いぢりをして怪我をしないと思つたりしないでください。あれからどうなすつて？

チャアルズ　おう、そんなに悪くもない。お前は知つてるかい、わたしは實際に軍隊を指揮して戰爭に勝つたのを？　濠の中へ飛び込んで腰の所まで泥まみれ血まみれになつたり、梯子を攀ぢ登つて石や煮え瀝青を頭から浴びせられたりして。お前のやうにさ。

ヂョウン　否！　あたしが、要するに、あんたを一人前の男にしたと仰しやるの、チャアリ？

チャアルズ　これでも今ぢやチャアルズ戰勝王だ。わたしはお前が勇敢だつたから勇敢にならなけりやならなかつたんだ。アグネスもわたしをちつとばかり勵ましてはくれたが。

ヂョウン　アグネス！　アグネスつて誰でした？

チャアルズ　アグネス・ソレル。わたしがほれた女さ。わたしはよくその女の夢を見る。お前の夢は今だに見たことがない。

ヂョウン　矢つ張しあたしみたいに死んでるの？

チャアルズ　うん。でも、お前には似てなかつた。大さうきれいだつたよ。

ヂョウン〔本氣に笑ひ出して〕　はは！　あたしはきれいぢやなかつたわ。あたしはいつもきたなかつたわ。正眞正銘の兵隊さんだつたわ。あたし男にだつてなれたわ。不幸でも何でもなかつたわ。あたしさうしたらあんた方をみんなあんなに困らせないですんだと思ふわ。でもあたしの頭は



天に行つてたし、神の榮光があたしの上にあつたから、男であらうと、あたしはあんた方の鼻がいつも浮世の泥に埋まつてゐる限りは、あんた方を困らせないではゐられなかつたのよ。さあ話して下さい、あんた方おえらい人たちが、あたしを一山の灰にしてしまつてから、どんなことが起つたかを？

チャアルズ　お前のお母さんと兄弟たちは、お前の事件をもう一度やり直してくれと裁判に訴へ出た。すると裁判は、お前を裁いた判事たちを、腐敗、僞瞞、詐欺、惡意に充ちてゐたと宣告した。

ヂョウン　さうぢやないわ。あんな人たちは、これまでえらい人を火あぶりにした馬鹿者たちと同じやうに正直だつたのよ。

チャアルズ　お前に對する宣告は、破られ、廢棄され、根絶されて、價値も效果もない、無用な非存在物となつてしまつた。

ヂョウン　だつて矢つ張しあたしは火あぶりにされたんですもの。あんな人たちはあたしの火あぶりを取消すことが出來るのでせうか？

チャアルズ　それが出來るくらゐなら、やる前に二度も考へただらうよ。だが彼等は決定した、

美しい十字架を火あぶり臺のあつた所に立てるやうに、と。お前の永遠の追憶のために、またお前の救濟のために。

ヂョウン　十字架を神聖にするのが追憶と救濟で、追憶と救濟を神聖にするのが十字架ぢやないわ。〔彼のことをば忘れて、あちらへ向き直る〕。あたしの方がその十字架よりも長生するでせう。ルアンは何處に在つたか忘られても、あたしのことは記憶されるでせう。

チャアルズ　そら、またお前のうぬぼれだ、相變らず！　お前はとうとう公平な取扱を受けることになつたのを一言ぐらゐ禮を云つてくれてもいいと思ふね。

コウション〔二人の間の怒に現はれて〕うそつき！

チャアルズ　ありがたいこつた。

ヂョウン　あら、ピイタ・コウションだわ！　いかがです、ピイタ？　あたしを火あぶりにしてから、よつぽど運がよくつて？

コウション　ちつとも。わたしは人間の正義を問うてるのだ。神の正義ぢやない。

ヂョウン　まだ正義の夢を見てるのね、ピイタ？　どんな正義があたしに來たか御覽なさい！　でもあんたはどうなすつて？　死んでるの、生きてるの？



コウション　死んでる。侮辱されてる。彼等は死んだ後までわたしを追つかけた。わたしの屍骸を掘り出して、下水の中へ抛り込んだ。

ヂョウン　あんたの屍骸はあたしの生身（なまみ）が火を感じたやうに鋤や下水を感じはしなかつた。

コウション　だが彼等がわたしに對して振舞つたこの事は正義を傷つけ信仰を壞し、教會の基礎を崩す。もし罪なき者が法の名に於いて屠られ、彼等の不正が心の純なるものを誹ることによつて取消される時は、固い大地も人間や精靈の足に蹈まれて叛逆の海の如くに搖れる。

ヂョウン　それでね、ピイタ、あたしは人があたしのことを思ひ出せば一段とよい人間になるだらうと望んでゐます。もしまたあんたがあたしを火あぶりにしなかつたら、人はあたしのことをこれほどよく思ひ出してはくれなかつたでせう。

コウション　人はわたしのことを思ひ出すと一段と悪い人間になるでせう。わたしに於いて悪が善に打ち克ち、虚僞が眞實に打ち克つことを見るでせう。人はお前さんのことを考へると勇氣が起つて來るだらう。わたしのことを考へると消耗するくせに。しかし神を證人に立てて云ふが、わたしは正しかつた。わたしは慈悲深かつた。わたしはわたしの見る所に忠實であつた。わたしは、わたしのした以外にはなんにもすることが出來なかつた。

チャアルズ　〔夜具から這ひ出して寢臺の片側に威儀を正して掛けながら〕　さうだ。いつも大きなまちがひを仕出かすのはお前たち善人だ。わたしを御覽！　わたしはチャアルズ善王でもなければ、チャアルズ賢王でもなければ、チャアルズ豪王でもない。ヂョウンの崇拜者たちはわたしのことをチャアルズ弱王と呼ぶかも知れない。わたしはあの女を火から引き出せなかつたのだが、わたしはお前たちの誰よりも害になることをしはしなかつた。お前たちのやうに頭を空に入れてる人間はいつも世界を逆さまにしようとしてゐる。だが、わたしは世界をあるがままに受け取り、頭を上にするのが正しい仕方だといふ。さうしてわたしの鼻をば、かなり地べたへ近くしてゐる。わたしはお前たちに聞くが、どのフランス王がわたしよりうまくやつたか、またその大したことでもない持前の行き方でわたしよりうまくやつた者があつたか？

ヂョウン　ほんとうにフランス王なの、チャアリ？　イギリス軍は行つてしまつて？

ヂュノア　〔ヂョウンの左手のタペストリから來て、同時に蠟燭がともり、彼の鎧や陣羽織を陽氣に照らす〕。わたしは約束を守つた。イギリス軍は行つてしまつた。

ヂョウン　まあ、うれしい！　ぢや、わがフランスは天の御國だわ。その戰爭の話をみんな話してくださいな。ヂャク！　あんたが指揮したの？　あんたは死ぬまで神の隊長だつたの？



ヂュノア　わたしは死んでやしない。わたしの身體はシャトウダンのわたしの寢臺の中でいい氣持に眠つてゐる。だが、わたしの魂はお前さんの魂に呼び出されて此處へ來てるんだ。

ヂョウン　それであんたは、あたしのやり方で戰爭したのね、ヂャク？　身代金を掛け合ふ古いやり方ぢやなく、むすめ流のやり方で、命を賭けて、心を高く謙遜に保ち、惡意を交へず、神に次いではなんにも考へないで、ただフランスを自由にすることと、フランス人のことばかし考へて。それがあたしのやり方だつたでせう、ヂャク？

ヂュノア　いや、勝てるやり方なら誰のやり方だつていい。だが勝つたやり方はいつもお前さんのやり方だつた。お前さんにはまゐるよ。わたしは今度の審問でお前さんを正しくさばいて貰はうと思つて手紙を書いた。恐らくわたしなら、坊主たちにお前さんを火あぶりにさせる筈はなかつたんだ。だが、わたしは戰爭に忙しかつた。それは教會の仕事で、わたしの仕事ぢやなかつた。わたしたちは、どつちも火あぶりにされたつて、なんにもならなかつたぢやないかね？

コウション　さうだ！　非難するなら坊主を非難するがよい。だが、わたしは賞讃と非難の外に立つて云ふが、世界は坊主に救はれたのでもなければ兵隊に救はれたのでもなく、神の聖者に救はれたのだ。地上の好戰教會はこの女を火あぶりにした。だが、燒かれながらも、その焰は

白くなつて天上の戰勝教會の光輝となつた。

時計が三番目の十五分を打つ。粗い男性の聲で卽興の節をうたつてるのがこきえる。

Rum tum trumpledum,
Bacon fat and rumpledum,
Old Saint mumpledum,
Pull his tail and stumpledum
O my Ma-ry Ann!

（ラム、タム、トランプルダム、
ベイクン、ファト、エンド、ランプルダム、
オウルド、セント、マンプルダム、
プル、ヒズ、テイル、エンド、スタン



オウ、マイ、メアーリ、アン！）

一人の惡黨じみたイギリス兵士が幕の間から出て、ヂュノアとヂョウンの中間へ進んで來る。

ヂュノア　どこの碌でなしの歌よみが、お前にそんな腰折を敎へたんだい？

兵士　歌よみぢやない。おらたちが行軍しながら作つたんだ。おらたちは身分のある人間でもなけりや歌よみでもなかつたがね。謂はば、人間の心からまつすぐに出た音樂だ。ラム、タム、トランプルダム。ベイクン、ファト、エンド、ランプルダム。オウルド、セイント、マンプルダム。プル、ヒズ、テイル、エンド、スタンプルダム。意味もなんにもありやしないやね。だが、これで行軍の足並をそろへてくれるんだぜ。さてとや、皆さん。誰が聖者をお呼びになつたんだね？

ピエロ

グロ

ヂョウン　お前さんが聖者？

兵士　さうよ。地獄からまつすぐに來た。

ヂュノア　聖者が、地獄から！

兵士　さうよ、隊長さん。一日だけ暇を貰ふんだ。毎年だぜ。これはおらが一つの善行に對する

特別認可なんだ。

コウション　やくざ者！　お前は一生の間にたつた一つきり善行をしなかつたんだね？

兵士　てんで、そんなものは考へたこともなかつたあね、平氣にやつつけちやつたまでよ。ところで、そいつが記錄に載つたんだ。

チャアルズ　何をやつたのだ。

兵士　なに、とんでもないばかばかしいことで。おらが——

ヂョウン〔寢臺の方へ歩いて行つて兵士の言葉を妨げ、寢臺にチャアルズと並んで腰かける〕　この人は二本の棒を結びつけて、それを火あぶりにされてる可哀さうな娘にやつたんです。

兵士　さう。誰に聞いたね？

ヂョウン　いいぢやないの、そんなこと。あんたはその娘にまた逢つたら、わかるか知ら？

兵士　わからないね。娘の子はたくさんあるんだもの！　それでゐてみんな世界中で自分だけのやうな顏をして覺えられたがるんだからな。その娘は特別上等にちがひない。だつて、おらは毎年、おかげで一日づつ暇が貰へるんだもの。だから、きちんと十二時までは、これでも聖者さ。はばかんながら、皆さん。



チャアルズ　それで十二時後は？

兵士　十二時後は、おらたち相應の所へ歸つて行くだ。

ヂョウン〔立上つて〕　あんな所へ！　お前さんが！　あの娘に十字架を上げたお前さんが！

兵士〔自分の兵士らしくない行爲を辯解しながら〕　いや、娘がほしいと云つたんだ。奴等は娘を火あぶりにしようとしてたんだ。娘だつて奴等と同樣十字架に對する權利はあつた筈だ。奴等には何ダスと十字架はあつたからな。なんしろ娘のお葬ひで、奴等のお葬ひぢやなかつたんだ。どこに惡い所があつたね？

ヂョウン　ねえ、あたしはお前さんを責めてるんぢやないのよ。さうぢやなくて、あたしはお前さんが苦しんでると思ふと堪へられないんです。

兵士〔快活に〕　大して苦しんでゐるわけぢやありませんよ。これでおらはもつとひどい目に遭つてたんだからね。

チャアルズ　何だつて！　地獄よりもひどい目に？

兵士　フランス戰爭に十五年も。地獄はその後ぢや御馳走みたいなもんでさ。

ヂョウンは兩手を上げて、處女神の畫像の前で此の世の絶望から逃れようとする。

兵士〔つづけて〕――おらには大分口に合ふんでね。暇の日がはなのうちは退屈だつた。雨の日の日曜みたいに。今ぢやあんまり氣にもならないがね。話によると、おらが欲しいと思へば好きなだけ何でも貰へるさうだ。

チャアルズ　地獄つてどんな所だね？

兵士　あんただつてさう惡い所だとは思ひなさるまい。大層な所ですぜ。云つて見りや年中醉つぱらつてるやうなもんで、それも飲む面倒もなけりや酒手も入らない。それから飛切の連中もゐます。皇帝だの法王だの王だのつていつたやうなのが。みんなおらがあの若い阿魔に十字架をやつたと云つて攻擊しやがる。だが、おらは平氣だ。ちやんと奴等に對抗して云つてやるのさ、もしあの阿魔がお前さんたち以上に十字架を持つ資格があるといふわけでなかつたら、お前さんたちと同じ所に來てる筈ぢやないかつてね。すると文句がねえんだあね、文句が。なにも出來ないで、ただ齒を食ひしばるだけさ、地獄流に。そこでおらは笑つて例の唄をうたひながら行つてしまふのさ。ラム、タム、トランプル――やあ！　誰だい戸口を叩いてるのは？

皆皆聞耳を立てる。長い靜かな叩く音がきこえる。

チャアルズ　おはひり。



戸口が開く、一人の老いたる牧師の、髪の白い、腰のこごんだ、馬鹿げたしかし善意の微笑を湛へたのが、はひつて來て、ヂョウンの所までちよこちよこと歩いて行く。

新來者　御免なさい、皆さん。お邪魔をしてすみません。しがない年寄の無害なイギリスの牧師です。一頃は大司教の專屬牧師（チャプリン）でした。即ちわがウィンチェスタ卿の。ヂョン・ド・ストガンバと申します。〔聞きたがる風でみんなを眺めて〕何か仰しやいましたか？　あいにくわたくしは少しばかり耳が遠いのです。それに少しばかり――いや、正氣の時はいつもさうでもないやうですがな。何しろ小さな村に正直な人間が少しばかりゐるきりで。たくさんです、たくさんです。みんながわたしくを愛してくれます。わたくしも少しばかりの善い事が出來ようといふものです。わたくしには、御存じの通り、良い緣引がございますので、樂にさせて頂けます。

ヂョウン　可哀さうなヂョン！　どうしてそんなになつたの？

ド・ストガンバ　わたくしはみんなに非常に注意ぶかくしなけりやいけないと申してをります。いつもかう申します。「もしあなた方があたな方の考へるものを見るだけならば、あなた方はそれについてまるきりちがつた考へ方をするやうになるでせう。それはあなた方に大きな打擊を

與へるでせう。おう、大きな打擊を。」するとみんなは申します、「はい、牧師樣、あなた樣はおやさしい方で、蠅一匹も殺さない方だといふことはよくわかつてをります。」さう云はれるのがわたくしには何よりの慰めです。と申すのは、わたくしは生れつき殘酷ではございませんからね。

兵士　誰が殘酷だと云つた？

ド・ストガンバ　いえ、なに、わたくしも殘酷とはどんな事だか知らなかつた爲に非常に殘酷な事をしたことが一遍あるのです。實は、殘酷な事を見たことがなかつたのです。これが一大事で、つまり見なければいけません。さうすれば、救はれ、助けられるのです。

コウション　われ等が主クリストの御受難だけではおわかりにならなかつたのですか？

ド・ストガンバ　さうです。さうです。まるきり。わたくしはそれを繪で見、書物で讀んで心を動かされたと思つてゐました。ところが、役に立たなかつたのです。わたくしを救つてくれたのはわれ等が主ではなく、わたくしがまのあたり火あぶりにされるのを見た一人の若い女でした。恐ろしかつたです。おう、實に恐ろしかつたです。だが、わたくしを救つてくれました。それ以來、わたくしは別人になつてしまひました。もつとも時時あたまが少しばかりずりちがふことはありましたが。

コウション　ぢやクリストみたいな人がいつの時代にも想像力のない者どもを救ふために苦しんで死なねばなりませんね？

ヂョウン　すると、たとひあたしには殘酷でなかつたとしても、あの人はほかの人たちには殘酷にした、その人たちをみんなあたしが救つたのなら、火あぶりにはされても無駄ではなかつたわけね？

ド・ストガンバ　いや、いや。あれはあなたぢやない。わたくしは目がわるくて、はつきりあなたの顏を見わけることが出來ませんが、あなたはあの女ぢやありません。いいえ、いいえ。あの女は燒かれておきになつてしまひました。死んでしまつたです。死んでしまつたです。



死刑執行人〔チャアルズの右手の寢臺の垂幕の後から歩み出て、寢臺はその間に挾まれることになつてゐたので〕　あの女は、御老人、あんたよりも壽命がつづいてゐますよ。あの女の心臟は火にも水にも滅びません。これでもわたしはこの商賣にかけちや親分で、パリの親分よりも、トゥルウズの親分よりも上でした。ところが、あの娘だけは殺すことが出來なかつた。あの娘は立ち上つて到るところに生きてゐます。

ウォリク伯〔反對の側の寢臺の垂幕から飛び出して、ヂョウンの左手の方へ來て〕　マダム、あんたの復籍をお喜び申します。わたしはあんたに釋明の負債があるやうに思ひます。

ヂョウン　おう、どうかそんなことは云はないでください。

ウォリク〔愉快さうに〕　あの火あぶりは全く政治的だつた。あんたに對する個人的感情などはなんにもなかつた。保證します。

ヂョウン　あたし少しも恨んだりしてはゐないわ。

ウォリク　さうとも。そんな風でわたしに逢つてくれるといふのはありがたい。育ちの良いしるしです。だが、わたしは大いに釋明さして貰はねばならぬ。實際のところ、さういつた政治的必要といふやつは得て政治的誤謬になるものです。しかも、あいつは實に大しくじりだつた。といふのは、あんたの精神は我我に打ち克つたですよ、マダム、われわれの薪束を物ともせずに。歴史はあんたの爲にわたしのことも記憶してくれるでせう。さういつた關係の事件は或ひは些か迷惑ではありますが。

ヂョウン　ええ、或ひはほんの些かね、をかしな人。

ウォリク　だが、あんたが聖女にされたら、その後光はわたしのおかげですよ。丁度この運のよい王樣の王冠があんたのおかげであると同じやうに。

ヂョウン〔彼に脊中を向けて〕　あたしは誰のおかげも受けやしません。あたしはあたしの中にあつた神の靈に何もかもおかげを受けてゐます。でも、あたしを聖者として想像なさつたりするの！聖女カサリンや聖女マアガリトは何といふでせう、こんな田舍娘が傍に突つ立たされたりしたら！



一人の牧師然たる紳士の、一九二〇年の流行の、黑のフロク・コウトにズボンをはいて、高帽をかぶつたのが、いきなり彼等の前、右手の片隅に現はれる。彼等は皆眺める。その時彼等は抑へきれない大笑をしだす。

紳士　どうしてこの騷は、皆さん？

ウォリク　これはまた恐ろしく滑稽な服裝を發明されて、おめでたう。

紳士　仰しやることがわかりませんね。あなた方はみんな假裝服です。わたくしは當然の服裝をしてゐます。

ヂュノア　服裝はすべて假裝服ぢやありませんか、我我の持つて生れた皮膚を除いては？

紳士　失禮ですが、わたくしはまじめな用向で來てゐますので、くだらない議論にたづさはつて

はゐられません。〔一枚の紙を取り出してそつけない役人風の態度を取る〕　わたくしはかういふことのお知らせに遣はされたのです。即ち、以前にはむすめとして知られてゐたるアルクのヂョウンは、オルレアンの司教によつて設置されたる諸問の主題となり、――

ヂョウン〔言葉の鼻を折つて〕　あら！　オルレアンではまだあたしのことを覺えてゐるわ。

紳士〔言葉の鼻を折られたことに對する憤慨を際立せるために調子を強めて〕――オルレアンの司教によつて設置されたる諸問の主題となり、前述のアルクのヂョウンが聖女として認められたしといふ要求に基き、――

ヂョウン〔またも言葉の鼻を折つて〕　でも、あたしそんな要求をしたことないわ。

紳士〔前のごとく〕　――教會はこの要求を普通の順序に於いて仔細に調査して、前述のヂョウンを尊位（ヴェネラブル）の階級、祝福（ブレスト）の階級と順次に承認し、――

ヂョウン〔せせら笑して〕　あたしが尊位だつて！

紳士　終に彼女は勇氣の德を備へ、特別の啓示を受けたる者なることを言明し、上述尊敬すべき祝福されたるヂョウンを聖女（セント）ヂョウンとし戰勝教會の聖餐に招くものなり。

ヂョウン〔夢中になつて〕　聖女（セント）ヂョウン！



紳士　五月十三日ごとに、上述最も祝福されたる神の娘の死の記念祭なれば、すべてのカトリク教會に於いては、ときの終まで、彼女の祝典として特別の祈禱を行ふべく、またすべてのカトリク教會に於いては彼女に奉納して特別の禮拜堂を建立し、その祭壇に彼女の影像を安置すること當然たるべし。また信徒にとりてはひざまづきて彼女を通して慈悲の御座に祈をあぐることと當然にして褒むべきことなり。

ヂョウン　おう否（ノー）。ひざまづくのは聖女（セント）の方よ。〔まだ夢中のままひざまづく〕。

紳士〔紙を捲き收めて、死刑執行人の傍に引きさがりつつ〕　バシリカ・ヴァチカナにて、千九百二十年五月十六日。

ヂュノア〔ヂョウンを立たして〕　あんたを燒くには半時間、親愛なる聖女（セント）。しかるにあんたに關して眞實を見出すには四世紀！

ド・ストガンバ　もし、私は嘗つてはウィンチェスタの樞機官（カアディナル）の專屬牧師（チャプリン）でした。みんないつもあの人のことをイギリスの樞機官（カアディナル）と呼んでゐました。ウィンチェスタ寺院のむすめにも一つ立派な像を見ることが出來たら、私にとつても私の主人にとつても大きな慰めでございませう。建てて頂けるでせうか、いかがでせう？

紳士　あの寺は一時アングリカン異教徒の手に歸してゐたから、私にはお答へ出來ません。

ウィンチェスタ寺院の像の幻影が窓越しに見える。

ド・ストガンバ　おう御覽なさい！　御覽なさい！　あれはウィンチェスタです。

ヂョウン　あれがあたしのつもりなんでせうか？　あたしは立つてると、もつと、しつかりしてつたわ。

幻影が消える。

紳士　私はフランスの現當局からむすめに對する公設の像の增加は通行妨害になる恐れがあるといふことを述べるやうに依賴されました。私は該當局に對する禮儀として述べますが、實はむすめの馬は他の如何なる馬よりも以上に大なる通行妨害となるものでないことを教會のために指摘しなければなりません。

ヂョウン　あら！　うれしいわ、あたしの馬のことを忘れずにゐてくれるなんて。

ランス寺院前の像の幻影が現はれる。

ヂョウン　あの變てこな小さいものもあたしなの？

チャアルズ　あれはお前がわたしに王冠をかぶせてくれたランス寺院だ。あれはお前にちがひない。



ヂョウン　誰があたしの劍を折つたんでせう？　あたしの劍は折れたことはなかつた。フランスの劍ですもの。

ヂュノア　大丈夫。劍は直せます。あんたの靈魂は折れはしない。あんたは、フランスの靈魂です。

幻影が消える。大司教と宗教裁判官が今やコウションの右と左に見える。

ヂョウン　あたしの劍はまだ打ち克てる。決して打ち下したことのない劍だもの。人はあたしの肉體をこはしたけれども、あたしはあたしの靈魂の中に神を見た。

コウション〔彼女にひざまづいて〕　野の娘たちはあなたを褒めたたへます。あなたは彼等の目を高めたから。さうして彼等と天國の間に何物もないことを知つてゐる。

ヂュノア〔彼女にひざまづいて〕　死にかけてゐる兵士たちはあんたを褒めたたへます。あんたは彼等と審判の間の光榮の楯だから。

大司教〔彼女にひざまづいて〕　教會の諸王たちはあなたを褒めたたへます。あなたは彼等の世俗性が泥の中を引きずつた信仰を贖つて上げたから。

ウォリク〔彼女にひざまづいて〕　ずるい樞機官（カアヂナル）たちはあんたを褒めたたへます。あんたは彼等が自分たちの靈魂を縛つてゐた結び目を切つて上げたから。

ド・ストガンバ〔彼女にひざまづいて〕　死の床なる愚かな老人たちはあなたを褒めたたへます。あなたに對する彼等の罪が祝福に變つたから。

宗教裁判官〔彼女にひざまづいて〕　目しひて法律に囚へられたる判事たちはあなたを褒めたたへます。あなたが生きた靈魂の自由と幻影を辯護して上げたから。

兵士〔彼女にひざまづいて〕　地獄の邪（よこ）しまなる者どもはあんたを褒めたたへます。あんたは彼等に消えない火だといふことを示して上げたから。

死刑執行人〔彼女にひざまづいて〕　拷問係や死刑執行人たちはあんたを褒めたたへます。あんたは彼等の手は靈魂の死といふことには無關係なことを示してあげたから。

チャアルズ〔彼女にひざまづいて〕　裝はない者たちはお前さんを褒めたたへる。お前さんは彼等に背負ひきれないほど重い勇ましい重荷を自分で引き受けたから。

ヂョウン　すべての人に褒めたたへられる時は禍なるかな！　あたしはあんた方に思ひ出して貰ふわ。あたしは聖（セント）女です。さうして聖女は奇蹟を行ふことが出來るといふことを。さあ云つて頂戴、あたしは死人の間から立ち上つて、生きた女としてあなた方の所へ歸つて行くことが出來ませうか？

彼等が驚いて皆飛び上つた時、突然の闇が部屋の四壁を塗りつぶす。人影と寢臺だけが見える。

ヂョウン　はて！　あたしまた火あぶりになるのか知ら？　あんた方だれもあたしを迎へてはくださらないの？

エ　コウション　異教徒はいつでも死んでる方がよい。さうして人間の目では聖者と異教徒の見分がつかない。がまんしてやつてください。〔來た時のやうに出て行く〕。

ピ　ヂュノア　わたしたちを許してください、ヂョウン。わたしたちはまだあんたに對して十分に善良でない。わたしはわたしの寢床へ歸つて行きます。〔これも出て行く〕。

ロ　ウォリク　わたしたちは心からわたしたちの小さい間違を悔いてゐます。しかし政治的必要は、時として誤ることはあつても、萬止むを得ないものである。だから、もし親切にもわたしを許してくださるなら——〔用心ぶかくそつと出て行く〕。

グ　大司教　あなたが戻つて來てもわたしはあなたが嘗つて想像してゐたやうな人間にはなれないで

せう。わたしの云ひ得る最上のことは、わたしにはどうもあなたを祝福し得ないけれども、いつかはあなたの祝福の境地に入れるやうにと望んでゐることです。しかし、さうしてゐるうちに――〔出て行く〕。

宗教裁判官　わたしは死人の仲間入をしてゐるのだが、あの日にあなたには罪のないことを證言しました。けれども、わたしには現狀に於いてどうすれば宗教裁判がなくて果してすまされ得るかわからない。だから――〔出て行く〕。

ド・ストガンバ　おう、戻つて來ないでください。戻つて來ちやいけません。私は平和に死なねばならぬ。私たちにこの世で平和を與へてください、おう、主よ！〔行く〕。

紳士　あなたの復活の可能といふことはあなたを聖列に加へる爲のこの度の會議に於いては考慮されなかつたのです。私は新規な指令のためロウマへ歸らねばなりません。〔形正しく辭儀をして退出する〕。

死刑執行人　この職業の一親分としてわたしはこの道の利害を考へて見なくちやなりません。それで、つまるところ、わたしの第一の義務は女房子供のことです。この事をみつちり考へて見なけりやならぬ。〔行く〕。



チャアルズ　氣の毒なヂョウン！　みんな遁げてしまつて取り殘されたのは十二時に地獄へ歸らねばならぬこの碌でなしだけだ。そこでわたしもヂャク・ヂュノアの例に倣つて寢床へ歸つて行くとしようか？〔さうする〕。

ヂョウン〔悲しさうに〕　おやすみ、チャアリ。

チャアルズ〔枕布團の中でむにやむにやと〕おやす。〔眠る。暗闇が寢臺を包む〕。

ヂョウン〔兵士に〕　さうしてあんたは、あたしのただ一人の信者？　あんたは聖女ヂョウンに對してどんな慰めを持つてゐるの？

エピグロ

兵士　へえ、みんな束になつたつてどれだけのもんだい、王樣にしろ、隊長にしろ、司教にしろ、法律屋にしろ、何にしろさ？　あんたが溝にはまつて死ぬほど血が出ても拋つとかうていふやつさ。さうしてその次は、いくら體裁をつくつたつて、あそこの下でお目にかかるにきまつてゐる。わたしに云はせるとかうです。あんたはあんたの考に對して十分な權利を持つてる。丁度彼等の考に對して持つてると同じやうに。しかも恐らくは更に十分な。〔この問題で講演をしようと身構へて〕ねえ、まあかういふんです。もし――〔夜半の第一打が遠くから軟かに聞こえる〕。が止むを得ない約束で――〔爪尖で行く〕。失禮です

最後に殘つた光が集まつて一つの白い輝となり。ヂョウンの上に落ちる。時間が鳴りつづける。

ヂョウン　おう、この美しい世界を造りたまへる神よ、いつになつたら世界はあなたの聖者たちを迎へるやうになれるのでせう？　どのくらゐでせう、おう主よ、どのくらゐでせう？

聖女ヂョウン　★★
定價　四十錢
（大森製本）

昭和七年八月廿日印刷
昭和七年八月廿五日發行

岩波文庫
839—840

譯者　野上豐一郎
東京市神田區一ツ橋通町三番地

發行者　岩波茂雄
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷者　君島潔

共同印刷株式會社印刷

發行所　岩波書店
東京市神田區一ツ橋通町三番地
電話〇一八七・〇一八八番
九段（〇三三番）〇一八九・〇一八〇番
小賣部專用
振替口座東京二六二四〇番

# 讀書子に寄す

——岩波文庫發刊に際して——

岩波茂雄

眞理は萬人によつて求められることを自ら欲し、藝術は萬人によつて愛されることを自ら望む。嘗ては民を愚昧ならしめるために學藝が最も狹き堂宇に閉鎖されたことがあつた。今や知識と美とを特權階級の獨占より奪ひ返すことはつねに進取的なる民衆の切實なる要求である。岩波文庫は此要求に應じそれに勵まされて生まれた。それは生命ある不朽の書を少數者の書齋と研究室とより解放して街頭に隈なく立たしめ民衆に伍せしめるであらう。近時大量生産豫約出版の流行を見る。その廣告宣傳の狂態は姑く措くも後代に貽すと誇稱する全集が其編輯に萬全の用意をなしたるか。千古の典籍の譯企圖に敬虔の態度を缺かざりしか。更に分賣を許さず讀者を繫縛して數十册を强ふるが如き、果して其揚言する學藝解放の所以なりや。吾人は天下の名士の聲に和して之を推擧するに躊躇するものである。この秋にあたつて岩波書店は自己の責務の愈重大なるを思ひ、從來の方針の徹底を期するため既に十數年以前より志して來た計畫を愼重審議この際斷然實行することにした。吾人は範をかのレクラム文庫にとり、古今東西に亙つて文藝哲學社會科學自然科學等種類の如何を問はず、苟も萬人の必讀すべき眞に古典的價値ある書を極めて簡易なる形式に於て逐次刊行し、あらゆる人間に須要なる生活向上の資料、生活批判の原理を提供せんと欲する。この文庫は豫約出版の方法を排したるが故に、讀者は自己の欲する時に自己の欲する書物を各個に自由に選擇することが出來る。携帶に便にして價格の低きを最主とするが故に、外觀を顧みざるも內容に至つては嚴選最も力を盡し從來の岩波出版物の特色を益發揮せしめようとする。この計畫たるや世間の一時の投機的なるものと異り、永遠の事業として吾人は微力を傾倒しあらゆる犧牲を忍んで今後永久に繼續發展せしめ、もつて文庫の使命を遺憾なく果さしめることを期する。藝術を愛し知識を求むる士の自ら進んで此擧に參加し、希望と忠言とを寄せられることは吾人の熱望するところである。その性質上純淸的には最も困難多き此事業に敢て當らんとする吾人の志を諒として其達成のため世の讀書子とのうるはしき共同を期待する。

昭和二年七月



## 既刊書目

### 國文學

新訓萬葉集 上卷 佐佐木信綱編 ★★★
新訓萬葉集 下卷 佐佐木信綱編 ★★★
自文萬葉集 上卷 佐佐木信綱編 ★★★
自文萬葉集 下卷 佐佐木信綱編 ★★★
古事記 幸田成友校訂 ★
訓讀日本書紀 上卷 黑板勝美編 ★
訓讀日本書紀 中卷 黑板勝美編 ★★★
古語拾遺 加藤玄智校訂 ★
水鏡 和田英松校訂 ★
大鏡 和田英松校訂 ★★
增鏡 和田英松校訂 ★★
三條西家本 榮花物語 上卷 三條西公正校訂 ★★
三條西家本 榮花物語 中卷 三條西公正校訂 ★★
參考 伊勢物語 屋代弘賢校訂 ★
竹取物語並附錄 島津久基校訂 ★
平家物語 上卷 山田孝雄校訂 ★★
平家物語 下卷 山田孝雄校訂 ★★
源氏物語 (一) 島津久基校訂 ★★
源氏物語 (二) 島津久基校訂 ★★
源氏物語 (三) 島津久基校訂 ★★
源氏物語 (四) 島津久基校訂 ★★
土佐日記 池田龜鑑校訂 ★
紫式部日記 池田龜鑑校訂 ★
更級日記 西下經一校訂 ★
枕草子(春曙抄) 上卷 池田龜鑑校訂 ★★
枕草子(春曙抄) 中卷 池田龜鑑校訂 ★★
倭漢朗詠集 山田孝雄校訂 ★
古今和歌集 尾上八郎校訂 ★★
新撰山家集 佐佐木信綱校訂 ★★
新古今和歌集 佐佐木信綱校訂 ★★
新訂金槐和歌集 改訂增補 齋藤茂吉校訂 ★★
藤原定家歌集(附定家年譜) 佐佐木信綱校訂 ★★
法華義疏 上卷 聖德太子御製 花山信勝講 ★★
正法眼藏隨聞記 懷奘編 和辻哲郎校訂 ★
日蓮上人文抄 姉崎正治校注 ★★
歎異抄 金子大榮校訂 ★
徒然草 西尾實校訂 ★
方丈記 山田孝雄校訂 ★
花傳書 世阿彌著 野上豐一郎校訂 ★
申樂談義 世阿彌著 野上豐一郎校訂 ★
能作書・覺書條條 世阿彌著 野上豐一郎校訂 ★
至花道書 ★
入木道三部集 同 麓校訂 ★
(附本朝能書傳)
奧の細道その他 芭蕉作 伊藤松宇校訂 ★
芭蕉七部集 伊藤松宇校訂 ★★
芭蕉連句集 小宮豐隆編 ★★
芭蕉俳句集 瀨原退藏校註 ★★
燕村七部集 伊藤松宇校訂 ★★
風俗文選 伊藤松宇校訂 ★★

鶉衣　石田元季校訂☆☆
おらが春・我春集　一茶作　荻原井泉水校訂☆
俳風柳多留　上卷　西原柳雨校訂☆☆
俳風柳多留　中卷　西原柳雨校訂☆☆
俳風柳多留　下卷　西原柳雨校訂☆☆
萬載狂歌集　野崎左文校訂☆
德和歌後萬載集　野崎左文校訂☆
松の葉　藤田德太郎校註☆
松の落葉　藤田德太郎校註☆☆
閑吟集　狂言ト歌集　附室町小歌拾遺集　藤田德太郎校註☆
好色一代男　西鶴作　和田萬吉校訂☆
好色一代女　西鶴作　和田萬吉校訂☆
好色五人女　西鶴作　和田萬吉校訂☆
日本永代藏　西鶴作　和田萬吉校訂☆
世間胸算用　西鶴作　和田萬吉校訂☆
西鶴織留　西鶴作　和田萬吉校訂☆
武家義理物語　西鶴作　和田萬吉校訂☆

武道傳來記　西鶴作　和田萬吉校訂☆
椿說弓張月　上卷　曲亭馬琴作　科田薫吉校訂☆☆
椿說弓張月　中卷　曲亭馬琴作　和田萬吉校訂☆☆
椿說弓張月　下卷　曲亭馬琴作　和田萬吉校訂☆☆
國性爺合戰　近松門左衞門作　和田萬吉校訂☆
鑓の權三重帷子　近松門左衞門作　和田萬吉校訂☆
會我稚山　我會稚山の綱島　近松門左衞門作　和田萬吉校訂☆
胡蝶物語　曲亭馬琴作　和田萬吉校訂☆☆
浮世風呂　式亭三馬作　和田萬吉校訂☆☆
浮世床　式亭三馬作　和田萬吉校訂☆
東海道膝栗毛　十返舍一九作　和田萬吉校訂☆☆
加賀鳶　河竹默阿彌作☆☆
赤垣源藏・仲光　河竹默阿彌作☆
忍ぶの惣太　河竹默阿彌作☆☆
縮屋の新助　河竹默阿彌作☆☆
孝子善吉　河竹默阿彌作☆☆
鼠小僧　河竹默阿彌作☆☆
實錄先代萩　河竹默阿彌作☆☆
お靜　河竹默阿彌作☆☆
笠森お仙　河竹默阿彌作☆☆
辨天小僧　河竹默阿彌作☆☆
鳩の平右衞門　河竹默阿彌作☆☆

## 小說・戲曲・詩歌・隨筆・評論

こゝろ　夏目漱石著☆☆
道草　夏目漱石著☆☆
行人　夏目漱石著☆☆☆
漾虛集　夏目漱石著☆☆
草枕　夏目漱石著☆
坊つちやん　夏目漱石著☆
五重塔　幸田露伴著☆
風流佛・一口劍　幸田露伴著☆
二人女房　尾崎紅葉著☆
觀音岩前篇　川上眉山著☆☆
觀音岩後篇　川上眉山著☆☆
にごりえ　たけくらべ　樋口一葉著☆
うたかたの記（他三篇）　森鷗外著☆
新曲浦島　赫映姬　坪內逍遙著☆



運命論者　他二篇　國木田獨步著☆
源をぢ　他二篇　國木田獨步著☆
號外　他六篇　國木田獨步著☆
櫻の實の熟する時　島崎藤村著☆☆
千曲川のスケッチ　島崎藤村著☆
飯倉だより　島崎藤村著☆
春を待ちつゝ　島崎藤村著☆
幸福者　武者小路實篤著☆☆
蒲團・一兵卒　田山花袋著☆
田舍教師　田山花袋著☆☆
小僧の神樣　他十篇　志賀直哉著☆☆
和解・或る男の死　其姉　志賀直哉著☆☆
陸奧直次郎　長與善郎著☆
青銅の基督　長與善郎著☆
偸盜　芥川龍之介著☆
侏儒の言葉　芥川龍之介著☆
厩世家の誕生日（他六篇）　佐藤春夫著☆☆
入江のほとり　正宗白鳥著☆
生まざりしならば　正宗白鳥著☆
大石良雄　野上彌生子著☆
海神丸　野上彌生子著☆
出家とその弟子　倉田百三著☆☆
布施太子の入山　倉田百三著☆
その妹　武者小路實篤著☆☆
人間萬歲　武者小路實篤著☆
友情　武者小路實篤著☆
煤煙　森田草平著☆☆
波　山本有三著☆☆☆
病牀六尺　正岡子規著☆☆
墨汁一滴　正岡子規著☆☆
仰臥漫錄　正岡子規著☆☆
子規歌集　正岡子規著☆
左千夫歌集　齋藤茂吉選☆
左千夫歌論抄　齋藤茂吉文明編☆☆
上田敏詩抄　茅野蕭々編☆☆
晚翠詩抄　土井晚翠著☆☆
藤村詩抄　島崎藤村自選☆☆
有明詩抄　蒲原有明著☆☆
泣菫詩抄　薄田泣菫著☆☆
逍遙遺稿　坪內逍遙文譯　金港堂編☆☆
歌舞音樂略史　小中村清矩著☆☆
俗樂旋律考　上原六四郎著☆
蘭學事始　杉田玄白著　野上豐一郎校訂☆
茶の本　岡倉覺三著　村岡博譯☆
綱島梁川集　安倍能成編☆☆
清澤文集　清澤滿之著☆☆
福澤撰集　福澤諭吉著☆☆
北村透谷集　島崎藤村編☆☆
海舟座談　巖本善治編☆☆

# 外國文學（小說・戲曲・詩）

杜詩 卷之一 漆山又四郎譯註 ★★
杜詩 卷之二 漆山又四郎譯註 ★★
杜詩 卷之三 漆山又四郎譯註 ★☆
杜詩 卷之四 漆山又四郎譯註 ★☆
陶淵明集 漆山又四郎譯註 ★☆
唐詩選 上卷 漆山又四郎譯註 ★☆
唐詩選（附作者略傳）下卷 漆山又四郎譯註 ★★
通俗古今奇觀 淡濟主人譯 那支小說集 青木正兒校註 ★
即興詩人 上卷 森鷗外譯 ★★
即興詩人 下卷 森鷗外譯 ★★
ブランド イブセン作 角田俊譯 ★★★
幽靈 ストリントベルク作 小宮豐隆譯 ★
稻妻 ストリントベルク作 小宮豐隆譯 ★
父 ストリントベルク作 小宮豐隆譯 ★
令嬢ユリエ ストリントベルク作 茅野蕭々譯 ★
オネーギン プーシュキン作 米川正夫譯 ★★
イワーン・イワーノヰッチとイワーン・ニキーフオロヰッチとが喧嘩をした話 ゴーゴリ作 原久一郎譯 ★
檢察官 ゴーゴリ作 米川正夫譯 ★★
現代のヒーロー レールモントフ作 中村白葉譯 ★★
皇帝フョードルアカトルストイ作 除村吉太郎譯 ★
プウニンとバブリン トウルゲニエフ作 小沼達譯 ★
罪と罰 第一卷 ドストエーフスキイ作 中村白葉譯 ★★
罪と罰 第二卷 ドストエーフスキイ作 中村白葉譯 ★★
罪と罰 第三卷 ドストエーフスキイ作 中村白葉譯 ★★
カラマーゾフの兄弟 第一卷 ドストエーフスキイ作 米川正夫譯 ★★★
カラマーゾフの兄弟 第二卷 ドストエーフスキイ作 米川正夫譯 ★★
カラマーゾフの兄弟 第三卷 ドストエーフスキイ作 米川正夫譯 ★★★
カラマーゾフの兄弟 第四卷 ドストエーフスキイ作 米川正夫譯 ★★
貧しき人々 ドストエーフスキイ作 原久一郎譯 ★★
永遠の良人 ドストエーフスキイ作 原久一郎譯 ★★
戰爭と平和 第一卷 トルストイ作 米川正夫譯 ★★★
戰爭と平和 第二卷 トルストイ作 米川正夫譯 ★★
戰爭と平和 第三卷 トルストイ作 米川正夫譯 ★★
戰爭と平和 第四卷 上 トルストイ作 米川正夫譯 ★★
戰爭と平和 第四卷 下 トルストイ作 米川正夫譯 ★★
イヴン・イリッチの死 トルストイ作 米川正夫譯 ★
結婚の幸福 トルストイ作 米川正夫譯 ★★
光あるうちに光の中を歩め トルストイ作 米川正夫譯 ★
クロイツェル・ソナタ トルストイ作 米川正夫譯 ★★
復活 上卷 トルストイ作 中村白葉譯 ★★
復活 中卷 トルストイ作 中村白葉譯 ★★
復活 下卷 トルストイ作 中村白葉譯 ★★
闇の力 トルストイ作 米川正夫譯 ★
生ける屍 トルストイ作 米川正夫譯 ★
櫻の園 チエーホフ作 米川正夫譯 ★
伯父ワーニャ チエーホフ作 米川正夫譯 ★
サーニン 上卷 アルツイバーシエフ作 中村白葉譯 ★★
サーニン 下卷 アルツイバーシエフ作 中村白葉譯 ★★



賢者ナータン レッシング作 大庭米治郎譯 ★☆
ギルヘルム・マイスター 上卷 ゲーテ作 林久男譯 ★★★
ギルヘルム・マイスター 下卷 ゲーテ作 林久男譯 ★★
ファウスト 第一部 森鷗外譯 ★★★
ファウスト 第二部 森鷗外譯 ★★★
ヘルマンとドロテア ゲーテ作 佐藤通次譯 ★
若いヱルテルの惱み ゲヨエテ作 茅野蕭々譯 ★★
ヴレンシュタイン 鼓 シルレル作 常良譯 ★★
ヴイルヘルム・テル シラー作 櫻井政隆譯 ★★
全譯 グリム童話集 第一 金田鬼一譯 ★★
全譯 グリム童話集 第二 金田鬼一譯 ★★
全譯 グリム童話集 第三 金田鬼一譯 ★★
全譯 グリム童話集 第四 金田鬼一譯 ★★
全譯 グリム童話集 第五 金田鬼一譯 ★★
全譯 グリム童話集 第六 金田鬼一譯 ★★
全譯 グリム童話集 第七 金田鬼一譯 ★★
ゲエテとの對話抄 エツケルマン著 亀尾英四郎譯 ★★
春の目ざめ ヴエデキント作 野上豐一郎譯 ★
埋木 キリシユネル作 森鷗外譯 ★
トオマス・マン短篇集1 實吉捷郎譯 ★
トオマス・マン短篇集2 實吉捷郎譯 ☆
祖妣 グリルパルツエル作 岡本修助譯 ☆
みれん シユニツツラ作 森鷗外譯 ★★
アナトール シユニツツラ作 小宮豐隆譯 ★★
青い鳥 メーテルリンク作 若月紫蘭譯 ★★
ポリウクト コルネイユ作 木村太郎譯 ☆
人間嫌ひ モリエール作 關口存男譯 ★
マノン・レスコオ アベ・プレヴオ作 河盛好藏譯 ★★
從兄ポンス 上卷 バルザツク作 水野亮譯 ★★★
從兄ポンス 下卷 バルザツク作 水野亮譯 ★★★
知られざる傑作（他五篇） バルザツク作 水野亮譯 ★★
カルメン メリメ作 杉捷夫譯 ★
コロンバ メリメ作 杉捷夫譯 ★★
エトルリアの壺（外五篇） メリメ作 杉捷夫譯 ★
ノア・ノア ポールゴオガン著 前川堅市譯 ★
日の出前 ハウプトマン作 橋本忠夫譯 ★★
希臘の春 ハウプトマン作 城田皓一譯 ★
ソアーナの異教徒 ハウプトマン作 奥津彦重譯 ★★
水の上 モーパツサン作 吉江喬松譯 ★★
ピエルとジヤン モウパツサン作 前田晃譯 ★★
生の誘惑（原名イヴエツト） モウパツサン作 前田晃譯 ★
お菊さん ピエル・ロチ作 野上豐一郎譯 ★★
氷島の漁夫 ピエル・ロチ作 吉江喬松譯 ★★
若き日の手紙 フイリップ作 外山檜夫譯 ★★
風車小屋だより ドーデー作 櫻田佐譯 ★★
愛と死との戲れ ロマン・ロラン作 岸山敏彦譯 ★
從兄ポンス 下卷 ロマン・ロラン作 片山敏彦譯 ★
獅子座の流星群 アンドレ・ジツド作 石川淳譯 ★★
法王廳の拔穴 アミーチス著 前田晃譯 ★★
クオレ 愛の學校 上卷 アミーチス著 前田晃譯 ★★
クオレ 愛の學校 下卷 アミーチス著 前田晃譯 ★★
恐ろしき媒 ホセ・エチエガライ作 永田寛定譯 ★★

作り上げた利害　ベナベンテ作　永田寛定譯　★
子守唄　シエルラ作　永田寛定譯　★
希臘羅馬神話　バルフインチ作　野上彌生子譯　★★★
フオースタス博士　マーロウ作　松尾相譯　★
バーンズ詩集　中村爲治譯　★★
エヴァンジェリン　ロングフェロウ作　齋藤悅子譯　★
クリスマス・カロル　ディツケンス作　森田草平譯　★
ブラウニング　サウル　齋藤勇譯　★
ラム沙翁物語　野上彌生子譯　★★
ブレイク抒情詩抄　壽岳文章譯　★
小公子　バアネット著　若松賤子譯　★★
聖女ヂョウン　シヨウ作　野上豐一郎譯　★★
人と超人　シヨウ作　市川又彥譯　★★
鰥夫の家　シヨウ作　市川又彥譯　★
思想の達し得る限り（原名メトセラ時代に歸れ）　シヨウ作　相良德三譯　★★
緋文字　ホーソン作　佐藤清譯　★★
ユリシーズ（一）　ヂエイムズチヨイス著　森田・名原他四名譯　★★
ユリシーズ（二）　ヂエイムズチヨイス著　森田・名原他四名譯　★★
ユリシーズ（三）　ヂエイムズチヨイス著　森田・名原他四名譯　★★

## 哲學・自然科學・文學・宗教・教育

プラソクラテスの辯明　プラトン　久保勉譯　★
プロタゴラス　プラトン　阿部次郎譯　★
純粹理性批判　カント　菊池甚一郎譯　★
實踐理性批判　カント　波多野精一　宮本和吉譯　★★
プロレゴーメナ　カント　桑木嚴翼　天野貞祐譯　★★
哲學體系　スピノーザ　小尾範治譯　★★
知性改善論　スピノーザ　島中尚志譯　★
哲學とは何か、ヴインデルバンド著　イマヌエル・カント　河東清譯　★
歷史と自然科學・道德の原理に就て・聖　ヴインデルバンド著　篠田英雄譯　★
認識の對象　リツケルト著　山内得立譯　★★
七大哲人　オイケン著　安倍能成譯　★
科學の價値　ポアンカレ著　田邊元譯　★
科學と方法　ポアンカレ著　吉田洋一譯　★★
科學者と詩人　ポアンカレ著　平林初之輔譯　★★
將來の哲學の根本命題　フオイエルバツハ著　植村晉六譯　★★
史的に見たる科學的宇宙觀の變遷　アーレニウス著　寺田寅彥譯　★★
アルプスの氷河第一部　ジヨンチンダル著　矢島祐利譯　★★
自然認識の限界について・宇宙の七つの謎　デユボアレーモン著　坂田徳男譯　★
自然に於ける美藝術の一般的意義　ソロヴイヨフ著　高村理智夫譯　★
ケーベル博士隨筆集　久保勉　安倍能成編　★★
カントとゲエテ　ジムメル著　谷川徹三譯　★
ファーブル昆蟲記　林達夫　山田吉彥譯

既刊　定價各★★

第二分冊・第九分冊・第十分冊
第十二分冊・第十三分冊・第十四分冊
第十七分冊・第十八分冊

チヤールズ・ダーウヰン　F・ダーウヰン著　小泉丹譯　★★
種の起原　上卷　ダーウヰン著　小泉丹譯　★★
人及び動物の表情について　ダーウヰン著　濱中濱太郎譯　★★
雜種植物の研究　メンデル著　小泉丹譯　★
生命の不可思議　上卷　ヘツケル著　後藤格次譯　★★



生命の不可思議　下卷　ヘツケル著　後藤格次譯　★★
回想のセザンヌ　有島生馬譯　★
この人を見よ　ニーチエ著　安倍能成譯　★★
ミル自傳　西本正美譯　★★
佛蘭西文學史序說　ブリユンチエール著　關根秀雄譯　★★
伊太利文藝復興期の文化　ブルツクハルト著　村松恒一郎譯　上卷　★★
ペーター論集　田部重治譯　★★
ラフカディオ・ヘルン東西文學評論　十一谷義三郎　三宅雄三郎譯　★★
文學史の方法　テエヌ著　瀨沼茂樹譯　★
人間の精神　レーム著　立花祐雄譯　★
戀愛論　上卷　スタンダル著　前川堅市譯　★★
戀愛論　下卷　スタンダル著　前川堅市譯　★★
戀愛と結婚　上卷　エレン・ケイ著　原田實譯　★★
戀愛と結婚　下卷　エレン・ケイ著　原田實譯　★
イミターショ・クリスチ（基督のまねび）　内村達三郎譯　★★
聖アウグスチヌス懺悔錄　全譯　内村達三郎譯　★★
アウグスティンのフオン・ハルナツク著　懺悔錄　山谷省吾譯　★

唯一者とその所有　上卷　スチルネル著　草間平作譯　★★
唯一者とその所有　下卷　スチルネル著　草間平作譯　★★
エミイル（第一篇）　ルソオ著　平林初之輔譯　★
エミイル（第二篇）　ルソオ著　平林初之輔譯　★
エミイル（第三篇）　ルソオ著　平林初之輔譯　★
懺悔錄　上卷　ルソオ著　石川戲庵譯　★★
懺悔錄　中卷　ルソオ著　石川戲庵譯　★★
懺悔錄　下卷　ルソオ著　石川戲庵譯　★★
獨逸國民に告ぐ　フイヒテ述　大津康譯　★★
内村鑑三隨筆集　内村鑑三著　★★
文明論之概略　福澤諭吉著　★★
論畫四種　坂崎坦編　★

## 法律・社會・政治・經濟

アリストテレス人の國家　アリストテレス原　隨園譯　★★
法の精神　上卷　モンテスキユー著　宮澤俊義譯　★★★
法の精神　下卷　モンテスキユー著　宮澤俊義譯　★★★
權利のための鬪爭　イエーリング著　日沖憲郎譯　★
民約論　ルソオ著　平林初之輔譯　★★
國富論　上卷　スミス著　氣賀勘重譯　★★★
勞働者綱領　ラツサアル　小泉信三譯註　★
哲學の貧困　マルクス著　木下半治　淺野晃譯　★★★
資本論初版鈔　マルクス著　長谷部文雄譯　★★
猶太人問題を論ず　マルクス著　久留間鮫造　細川嘉六譯　★
獨逸國民に告ぐ　エンゲルス著　加藤正　加古祐二郎譯　★★
自然辯證法　上卷　エンゲルス著　加藤正　加古祐二郎譯　★★
自然辯證法　下卷　エンゲルス著　加藤正　加古祐二郎譯　★★
住宅問題　エンゲルス著　加田哲二譯　★★
原始基督教史考　カウツキー著　真多野清一譯　★
基督教の成立　カウツキー著　西雅雄譯　★★
家族・私有財産及國家の起源　エンゲルス著　西雅雄譯　★★
フオイエルバツハ論　エンゲルス著　佐野文夫譯　★
反デユーリング論　上卷　エンゲルス著　長谷部文雄譯　★★
空想より科學へ　エンゲルス著　淺野晃譯　★
法の精神　リヤザノフ著　長谷部文雄譯　★★
マルクス・エンゲルス傳　ローザ・ルクセンブルグの手紙　松井雪子譯　★★

マルクス・エンゲルス　ドイツチエ・イデオロギー　三木清譯　★
レーニン　帝國主義　長谷部文雄譯　★★
レーニン　唯物論と經驗批判論　上卷　佐野文夫譯　★★
レーニン　唯物論と經驗批判論　中卷　佐野文夫譯　★★
レーニン　唯物論と經驗批判論　下卷　佐野文夫譯　★★
レーニン　何を爲すべきか　平田良衛譯　★★
經濟學及課稅之原理　リカアドオ著　小泉信三譯　★★★
道德の經濟的基礎　シュタウディンガー著　草間平作譯　★★
ラスキン　藝術經濟論　西本正美譯　★★
建築の七燈　ラスキン著　高橋松川譯　★★★
この後の者にも　ラスキン著　西本正美譯　★★
地代論　ロードベルトウス著　山口正吾譯　★★★
ベーベル　婦人論　上卷　草間平作譯　★★
ベーベル　婦人論　下卷　草間平作譯　★★
近代民主政治　一ブライス著　松山武譯　★★★
近代民主政治　二ブライス著　松山武譯　★★★
近代民主政治　三ブライス著　松山武譯　★★★
近代民主政治　四ブライス著　松山武譯　★★★
ギユイ社會學上より見たる『藝術』第一部　大西克禮小方庸正譯　★★
ギユイ社會學上より見たる『藝術』第二部上　大西克禮小方庸正譯　★★
ギユイ社會學上より見たる『藝術』第二部下　大西克禮小方庸正譯　★★
經濟要錄　佐藤信淵著　流本版一校訂　★★

## 御註文に就て

□此の文庫は、普及を第一義として刊行する廉價版です。

□內容の嚴選　古今東西のあらゆる古典及び、價値高き良書を網羅し、校訂、飜譯に於ても最善を期します。

□最低の廉價　出來る丈安く手に入れられる樣に、小さい形の中に、澤山の內容を盛る形式を採りました。

□購求の自由　しかも讀者が全く自由に欲しい本を隨時求められる自由選擇の方法を採りました。

□印刷の鮮明、校正の精確、製本の堅牢等の實際的方面に於ても亦最善を期します。

□體裁は菊半截判、紙裝、平福百穗畫伯裝幀

□活字は八ポイントを用ひました。

□約百頁を單位として星一つを以てそれを現はし、★一つ毎に二十錢の定價です。

□★一つを1に算へて此の文庫の番號を進めてゆきます。

□番號はただ發行順に從つて之を追ふものであります。

□★★或は★★★は、それぞれ二百頁或は三百頁の本一册なることを示し、百頁づつの分册ではありません。

□送料(及び定價)は左表の通りです。

| | 定價二十錢 | 送料二錢 |
|---|---|---|
| ★ | 四十錢 | 四錢 |
| ★★ | 六十錢 | 四錢 |
| ★★★ | 八十錢 | 六錢 |
| ★★★★ | 一圓 | 六錢 |
| ★★★★★ | | |

□御註文は前金で御願ひ致します。小さい本で極度の廉價なのですから必ず送料はお添へ下さい。切手代用は一割增に願ひます。




# 岩波書店最新刊書

三條西家本　榮花物語　中卷　三條西公正校訂　★★
源氏物語　四　島津久基校訂　★★★
校註　芭蕉俳句集　嶺原退藏校訂　★★
武道傳來記　井原西鶴作　和田萬吉校訂　★
飯倉だより　島崎藤村著　★
春を待ちつゝ　島崎藤村著　★
侏儒の言葉　芥川龍之介著　★
友情　武者小路實篤著　★
煤煙　森田草平著　★★
支那小說集　通俗古今奇觀　淡濟主人譯　青木正兒校註　★
ノア・ノア　ポール・ゴオガン著　前川堅市譯　★
風車小屋だより　ドーデー著　櫻田佐譯　★★
獅子座の流星群　ロマン・ロラン作　片山敏彥譯　★
ラム　沙翁物語　野上彌生子譯　★★★
聖女ヂョウン　シヨウ作　野上豐一郎譯　★★
ユリシーズ(一)　ヂョイス作　森田・名原他四名譯　★★
ユリシーズ(二)　ヂョイス作　森田・名原他四名譯　★★
ユリシーズ(三)　ヂョイス作　森田・名原他四名譯　★★
アルプスの永河　——主に談話的に——　チンダル著　矢島祐利譯　★★
文學史の方法　テエヌ著　瀨沼茂樹譯　★
人間の精神　レーム著　立花祐雄譯　★
聖アウグスチヌス　懺悔錄　內村達三郎譯　★★★
內村鑑三隨筆集　內村鑑三著　★★
論畫四種　坂崎坦編　★
ローザルクセンブルグの手紙　ルイゼカウツキー編　松井圭子譯　★★

## 岩波文庫近刊書目

訓讀日本書紀（下卷）　黑板勝美編

ヘルマンとドロテア　ゲーテ作　佐藤通次譯　★

エミイル（第四篇）　ルソオ著　平林初之輔譯　★★

永遠の良人　ドストイエフキイ作　原久一郎譯　★★

幼年時代　トルストイ作　米川正夫譯　★★

少年時代　トルストイ作　米川正夫譯　★

三人姉妹　チエホフ作　米川正夫譯　★

トルストイ民話集　人は何で生きるか　他四篇　中村白葉譯　★

トルストイ民話集　イワンの馬鹿　他八篇　中村白葉譯　★

ユリシーズ（四）　ヂエイムズ・ヂヨイス作　森田・名原・龍口・小野・安藤・村山譯　★★

イエス　ギルヘルム・ブセット著　林達夫譯　★

**Kodak** Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

**Kodak** Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

| Blue | Cyan | Green | Yellow | Red | Magenta | White | 3/Color | Black |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|